

内容項目	B 親切、おもいやり	主題名	親切のよさ
内容項目指導の観点	身近にいる人に温かい心で接し、親切にすること		

①授業者の価値観 ※ねらいとする道徳的価値（道徳の内容）について、学習指導要領に基づき明確な考えをもつ。


授業者が考える **親切のよさ** とは？※この1年間でこの学級の子どもたちに育てたいこと

親切とは、した人もされた人も、心が温かくなることで、相手の喜びを自分の喜びとして受け入れられるようにし、具体的に親切な行為ができるようにしたい。

②児童観 ※授業者の明確な価値観に基づくこれまでの指導と子どもの学び、よさや課題を明確にし、本時の方向性を示す。

各教科等、さまざまな場面でこの視点で **B 親切、おもいやり** に関わる指導をする

各教科で指導したこと	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳：くま君のたからもの（親切） ・国語：「うれしいことば」
------------	--

その結果、児童は 

よさ	多くの児童が親切や、おもいやりの行為の良さを感じられるようになってきた。
課題	親切にしたい思いはあるものの、自分中心で行動してしまうことがある。

実態から求められること(ねらい)＝ここが授業の中心 育てたいのは、**判断力、心情、意欲と態度**

相手の身になって考え、おもいやりのある行動を具体的にしていこうとする意欲と態度を育てたい

③教材観 ※授業者の明確な価値観、本時の方向性を基に、教材の活用の仕方を明らかに、教材は活用するもの

本時で扱う教材	かっぱわくわく
実態から教材のどこを中心に考えさせるのか。	困っている相手に寄り添う「かんすけ」と、親切にすることには無関心で自己中心的な考えの「すっく」「ざんざ」が「かんすけ」からの広がりによって助けられ、親切にする行動に出た点 実態からどのように教材を活用するか。 本時は、 補充 深化 統合 をねらう。

④教材分析表 ※中心発問から前後の発問を考える

本時の学習課題	困っている人を助けると、どんな気持ちになるか考えよう
---------	----------------------------

価値理解：人間としてよりよく生きる上で大切なことであることを理解すること。 **人間理解**：道徳的価値は大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さなども理解すること。

他者理解：道徳的価値を実現したり、実現できなかったりする場合の感じ方、考え方は一つではない、多様であるということを前提として理解する。

中心発問	意図(他、人、 価値 理解)
「すっく」と「ざんざ」は、どんな気持ちから「かんすけ」に「わくわく水」をあげたのでしょうか。	親切にすることで相手も嬉しい、自分もすっきり、という心の動きに繋げる。

発問	意図(他、人、 価値 理解)	発問	意図(他、人、 価値 理解)
「かんすけ」はどんな気持ちから、子ぎつねや小鳥に「わくわく水」をあげたのでしょうか。	「かんすけ」は素直な親切心から子ぎつねや小鳥を助けたことに触れつつ、「すっく」と「ざんざ」の対応に繋げる。	小鳥や子ぎつねはどんな気持ちから「かんすけ」たちを助けてあげたのでしょうか。	親切の恩返しで「かんすけ」だけでなく一緒にいた「すっく」「ざんざ」も助けたことに気づかせる。

指導方法は **自我関与中心 問題解決的** **体験的** 指導の工夫 再現構成法的手法